

## 第六期武蔵野市コミュニティ市民委員会

### 第13回委員会

日 時：平成21年8月6日（木）18:30～

場 所：市役所西棟812会議室

出席委員：高田委員、小木委員、橘委員、島森委員、渡邊委員、井原委員、和久田委員、  
島田委員、井波委員、近藤委員、増田委員、清本委員、西村委員

#### 議事

##### ①中間報告の完成について

- ・資料1 中間報告案について、コンサルタントより説明。

（高田委員長） 江上副委員長の提示したコミュニティを土台と活動に分けるという考え方に沿って、分類されて書かれている。

これをふまえて、私がコメントをつけたものが資料の3だ。

- ・高田委員長から資料3のコメントの説明

（高田委員長）

8ページの「施設の外観を工夫するなど」は、どういう意味か。

（コンサルタント） これは例えば看板について見やすくする、あとは入り口部分の見やすいところに「ご自由にどうぞ」「誰でもどうぞ」といった張り紙をしてみるということだ。

（事務局） いかにも役所が建てたような建物で、少々入りづらいという意見もあったので、入り口近くに花を置くなどして、建物を変えなくても方法があるのではないかとということが含まれている。

（高田委員長） 1週間前に送付されたものを読んで来て、今日、整理し直したものをご覧になった意見を伺いたい。

I、IIとあるが、まとめのIIIが必要だと思い追加した。従来のコミュニティ概念を土台と活動に区分して、コミュニティとコミュニティセンターとコミュニティ協議会とに分けて、その2つのところから、それぞれ課題と役割を考えて整理してみると、今までのようになった。

その次のあたりは、10 ページに追加した。行政とコミュニティ協議会との関係について、今のままでよいかという提起にかかるような形で、「コミュニティ構想に基づいて行政はコミュニティづくりに関して黒子的役割に徹してきたが、協働が重視されるようになった今日、より積極的な役割を果たしてもよいのではないか」という表現を追加した。

第5回のコミュニティ市民委員会の時に、私はNPOを報告の中に入れ、それを含めてコミュニティ協議会との関係を考えようと思った。市民のヒアリングを重ねて、特別のものをつくるのではなく、コミ研連というか、要するに市民自身が自分たちでやっていく形でコミュニティづくりをやっていくということだ。

ちょうどNPO法が1998年にできて、まだ武蔵野市ではNPOを考えていないと思っていたが、コミュニティ条例が出ると、明らかにNPOの存在を前提にして書いてあった。

今回は第六期だから、やはりNPOとの関わりについて、触れておくべきだという思いがあり、最後のところに追加した。

(清本委員) NPOの問題については、十分議論されなかったような気がする。何回か出てきてはいるが、合意形成がなされるところまでは議論が熟していない。新しい時代のコミュニティの中には、行政も関わってほしいと、個人的には願っているが、果たしてどこまで熟した議論がされているか疑問が残る。

(西村委員) 第五期市民委員会の答申の先にあるものとして、この第3章をつけ加えることは賛成だが、私たちはまだこれについて話をしていないし、清本委員の意見と同様、合意ができていない。今後の答申に向けて、ひとつの問題提案としてこれから討議を進めるということを明記しないと、理解を得られないのではないか。

特にNPOの部分については、コミュニティ条例を前提に考える必要はない。NPOはNPOでNPO活動に関する条例がある。

そもそもコミュニティの定義が、第五期の市民委員会と現在とで変わっているのならば、コミュニティの定義からやり直すべきだ。

(高田委員長) 変わってはいないと思うが。

(西村委員) しかし、第五期の市民委員会はコミュニティの定義があり、コミュニティ条例とは違うから、そこまで考えるべきだ。

この資料3に書かれた最後の、NPOによるまちづくりなども、地域ということに限定しているのか。

(高田委員長) ここでのNPOというのは、まちづくりNPOを念頭においている。た

たとえば、世田谷のNPOハウスのように、それぞれの専門家が集まって、お祭りとか、人のコーディネートなど、まちづくりNPOが指定管理者に指定されて、その地区を活性化していくNPOのことだ。

(西村委員) しかし、コミュニティ条例で想定されているNPOというのは違うので、中間報告の文章は気をつけないといけない。

(高田委員長) せっかく第六期のものがあるわけだから、何か第六期として総括として、今までとは違う部分を入れたい、と考えた。

たとえば、活動の場と対話の場の提供、などの言い方は、コミュニティセンターをこれから何とかしていこうという時に、非常にわかりやすいが、コミュニティをどう管理運営していくかに関しては、第三期のコミュニティ協議会でしっかり出されている。

整理をしたのはいいが、何か目玉になるような、新たな展開という部分が必要なのではないか。

それで、以前から考えていたNPOを、今回最後のところに入れてみた。ご指摘のとおり、NPOを入れるのは、皆さんの議論ができていないので、どうかと思う。また、真ん中あたりの「コミュニティ構想に定められた市民と行政の関係を見直す時期に来ているのではないか」でどう見直すのかという話で、協働ということで、黒子的な役割を出して、それで行政のほうも、と思っている。

コミュニティ構想ができたころは、市民側はコミュニティ自身がわからなかったが、30年か35〜36年経って、市民が力をつけてきたと思える部分がある。市民たちが積極的にコミュニティづくりに取り組むようになってきているなら、行政との関係も少し変わってきた、変わってくるような時期にきているのではないか。

(橘委員) 第五期と第六期との差など、進捗状況をもう少し明確にしようという考えがあると思う。

第五期では、いわゆる地域コミュニティ、それから目的別コミュニティ、そして電子コミュニティというこの3つが明確に打ち出された。

(高田委員長) 第五期は、目的別、電子ということは言っていない。地域コミュニティだけだ。

(事務局) 電子や目的は条例の中で初めて書いている。

(高田委員長) そこまで市民がやっていない。特に電子コミュニティがそうだ。

(橘委員) 今、NPOの話が出たが、いわゆるNPOという考え方は、新しい考え方だ。

われわれがやってきたコミュニティは、もっと古い考え方で、歴史があるので、NPOとは違う。その違いをもう少し明確に打ち出すということだ。

高田委員長は、NPOとコミュニティを同質に考えているようだが、私は多少違うと思う。特に3つ目の「コミュニティ条例で想定されているNPOによる」というところだ。

われわれが考えてきた、またやってきたコミュニティとNPOは、同質のものではなく、ある意味では全く異質のものだ。われわれがやってきたコミュニティと、一般に言われているNPOの定義づけをそれぞれはっきりさせて、その整合性をとる必要性はないのではないか。ある接点では、NPOと協働するところがあっても全然おかしくはないが、必ずしも並列的に両方同じスピードで進むべきことでもない。その辺の議論をもう少ししてみたらどうか。

(高田委員長) 地域の中にいろいろな市民活動団体があり、それがそれぞれ動いているが、それをどう関係づけるかだ。地域コミュニティなどとの関係を考える。

(橘委員) それをどうやってコーディネートしていくかだ。

(高田委員長) 個人的な考えだが、今のコミュニティ協議会というのは、地域の活動拠点だ。この拠点の役割については、コミセンはNPOサポートセンターの役割だと思っている。だから、NPOなどの各種活動を、コーディネートし、その地域の中で支援していく。

(橘委員) 最大のサポートは、やはり場の提供が非常に大きい。ほかの団体にはできない、コミセン独特の特有の機能だ。

(島森委員) NPO関係なので、井波委員に意見を直接伺いたい。

(井波委員) 武蔵野市は言葉が独特だと思う。例えば地域コミュニティというのは一般的に通用するが、目的別コミュニティというのは、私は納得できない。

コミュニティ論という本によると、本来ならば、ある目的、お互いの利益が結びつくような集まりのアソシエーションという表現だ。NPOも実はアソシエーションの一部だ。確かに橘委員の意見のとおり、同等に置くのは問題があると思うが、特別なものではない。

個人的には、ページごと詳細に見ると、ここまでコミュニティ協議会に負担をかけていいものかどうか疑問に思うものがある。まず言葉を世間一般に通用するネーミングにして、皆さんと同じ土台に立たないといけない。

(西村委員) コミュニティが地域性をいつも伴うことについて共通認識を持たないと、ほかのところを読み込んでいく時にも、問題が出るのではないか。

(高田委員長) これは地域コミュニティだ。

(西村委員) あくまでも地域性を伴うということか。

ざっと目を通して、意見を言う側として考えると、レイアウトがわかりにくい。わかりやすいように工夫して欲しい。

それから、6ページの「おともだちづくりサポート隊」というのは非常におもしろいネーミングだが、これを上に持ってきてしまうと、この言葉がひとり歩きしそうなので、文章の中に入るレベルでいいのではないか。

(清本委員) 「ともだちづくりのコーディネーター」という言葉があるが、今までコミセンの場でコーディネーターという言葉が使われていたのだろうか。唐突な感じがする。コーディネーターという言葉は、むしろNPOでよく使う言葉だ。新しい概念として、コミセンの中にコーディネーター的な要素が必要だとするなら、もう少し詳しい説明が必要だ。

(小木委員) 例えばその次は、「活動を行う団体へのサポート」、それからその次は、「出会いの場の提供」という言葉が使われている。このような言葉に比べて、コーディネーターは、もう一步踏み込んだ機能をイメージしてしまうから、多少違うのではないかと感じていた。

(清本委員) 今までコミセンの窓口などに、そのような機能が必要だと言われていても、コーディネーターという言葉ではっきり言われたことはないような気がする。

(高田委員長) このコーディネーターは誰が使ったのか。

(コンサルタント) 江上副委員長が、地域の事務局という文脈で、団体間の活動をコーディネートするという時に使っていたものを使っているが、たとえば「ともだちづくりのお手伝い」のような表現でもいいと思う。

(高田委員長) 私が直しているところ以外に、気がついたことがあれば意見をいただきたい。

(井原委員) パブリックコメントの主旨の3行目には「コミュニティの役割」とあって、「孤立しがちな市民を見守るという役割」になっている。4行目が「市民の期待に応えるコミュニティのあり方」とあるが、「役割」と「あり方」が違うのは何か意味があるのか。

(事務局) 市民委員会の設置要綱の文章から引用しているだけなので、わかりにくければ修正する。

(高田委員長) コミュニティの役割を消してしまっ、「コミュニティへの期待が高まる」

としたらどうか。

(橘委員) そもそも中間報告は、ヒアリングのための中間報告なのか、市長に中間的に報告を出すのか。

(事務局) 市民から意見をいただくために、ここまで議論した内容を報告して、その後意見をいただくということだ。基本的には市長に出すものではない。ヒアリングをやるためのたたき台を、皆さんにお知らせするという趣旨である。

(高田委員長) では次に、コミュニティの現状と課題について。

(和久田委員) 「人と人との緩やかな結びつき」の「緩やかな」という表現は、今までなかった。この「緩やかな結びつき」の意味は何か。

(島森委員) 緩やかなという言葉で何か幅を持たせる意味で使いたかったのだろう。たとえば顔だけ、顔見知りになっても、それも結びつきのひとつとするということだ。

(高田委員長) 次のコミュニティの現状と課題だが、課題ばかり出てくるので、問題を政策化したものが課題になるので、問題と課題を少々修正している。

(井原委員) 3ページの(1)の土台づくりにおける現状の課題だが、現状は書いてあるのに、課題が書かれていないような気がする。それはここに書いてあるものをもっと何とかするのが課題だと、暗黙の了解としての書き方なのか。他の部分では「どのように対応していくかが課題となっている」や、問題等もきちんと書いてある。

まだ議論がなされていないから書いていないのであれば、今後の議論が必要だと書いたほうがいいのではないか。

(事務局) この四角い枠の中には現状と課題で双方が入っている。人と人との繋がりが求められているのは現状でもあり、課題でもあるということだ。

(小木委員) 文章の書き方として、「課題となっている」とまとめて書かれて、最後にまとめられている部分と、そうしたまとめがない部分が混ざっているため、疑問が出たのではないか。現状であり課題でもあるのだと読み取ることは出来る。

(高田委員長) 課題はこの中に含まれているとみなしていいのではないか。4ページ、5ページまでのコミュニティセンターの現状と課題のところはどうか。

(西村委員) 5ページの「貸部屋となってしまう、活動推進の拠点となっていない」とまで書ききるのは言い過ぎだと思う。

(井原委員) 「貸館となってしまう活動促進の拠点となっていないのではないか」とい

う投げかけではどうか。投げかけることによってパブコメが出てくればそれでいい。コミセンに関わっている方が「そんなことはない」と言えばそれでいいし、使っているだけの方達が、「いや、その通りだよ」と言えば、ではその中で今後貸館だけに特化していくのか、どうなのかという議論をやっていけばいい。

(橘委員) ここで窓口の対応に問題があるということがある。実はこの間の研連で、2回ほど検討し、あるコミセンからもいろいろと問題提起が出た。現状は大、中、小という区分の中で、朝、昼、晩、2人体制、1人体制、様々な体制になっている。大、中、小で単純に割り切って1人体制、2人体制とするのは問題があることが議論された。16コミセンのひとつの申し入れとして、研連の決定事項として大、中、小、関係なく2人体制にして欲しいという要望を市に出した。今コミセンがそうした方向にあるとここに書き加えていただけないか。

(高田委員長) 忙しいから、窓口の対応に問題がでるということか。

(橘委員) 特に1人体制だ。今まで、2人体制があったのは、夜、危険だからなどの理由だ。利用者のことを考えた対応ではなかったが、それで本当にいいのかということになった。コミセンの大、中、小は、仕事量と関係ない。実態がそうなっているので、変えて欲しいという要望を出した。

(井原委員) それはヒアリングの時とか、パブコメに対して研連の方たちがきちんと文書にするなり、意見として言うのがやり方ではないか。

これはわれわれが話し合ったことの中間報告だ。そこに研連の現在の対応や、研連があげた要望を書くのはおかしい。

(高田委員長) この丸のちょっと、下の部分の4番目に、2人体制にして、さらにその改善を、と加えるということか。

(事務局) 先ほど井原委員が言われたように、状況がいわゆる貸館になっており、忙しくてしかたがなくて、どうしても2名体制にするべきだというならば、それはこの委員会の報告で出していただいてもいいと思う。今はまだそのような状況ではないので、こちらからそれを言う必要はないのではないかと。相手が反応して、意見をいただいた時に、コミュニティ市民委員会がどう判断されるかだと思う。要望はこちらに来ているので、それはこちらでも真摯に検討させていただく。

(高田委員長) ここは先ほど井原委員が言ったような形にして、パブリックコメントの時に受けてはどうか。

(渡邊委員) 4ページの「窓口の対応に問題がある場合がある」と、わざわざ「場合」を入れて、窓口に関連した自由意見の一例を書くのは、極めて切実かもしれないが、これだけをあまり強調し過ぎるのは、的を射てないと思う。

窓口の対応は重大だし、窓口の問題があるケースもあるが、それは運営協議会の問題で、窓口だけの問題ではない。このあたりは修正していただきたい。

(高田委員長) そうだろうか。これは問題提起だから。

(渡邊委員) 「無愛想な方が数名います」などの指摘は、おかしいのではないか。

(増田委員) これは市民の方の自由意見だ。それを修正する必要はないのではないか。

(渡邊委員) 自由意見だが、多くある自由意見の中からここでピックアップするやり方について言っている。全体でこうして取り上げるのはどうか。これからのあり方を考えたら、まずいところは率直にという方向はいいが、いかにもそのことを全部、窓口の固有名詞に集約しても、よくなると思う。

(井波委員) ここに全ての意見を全部羅列するなら問題ないが、これしかピックアップせずに、その中にこれを入れるのはおかしいということか。

(井原委員) ただここに書いてある通りに「利用者が一部に限定されている」とか「気軽に立ち寄れる場所ではない」とか、窓口の問題があるのはこの中でもずっと議論されてきたことであって、このような意見もあったということは、それはそれで載せなければいけないことだから、しかたがないのではないか。だからこそ「今後、どうしていきましょうか」となり、それに対して協議会の皆さんが「きちんと対応するためのこともやっていますよ」とちゃんと行っていただければいいわけだから、いいのではないか。

(渡邊委員) 数多くある件の中からここへ出して、どのような順番で、どういう中身をピックアップするかというのは極めて重要だ。

(西村委員) 残念なことに氷山の一角と言っていいほど、窓口への苦情が多い。多くのコミセンが抱えているのに、簡単に解決できない問題だ。

(井波委員) 無愛想というのは非常に曖昧で、愛想のいい人もいるし、無愛想な人がいてもいい。ただその窓口業務をきちんとかなしてくれればいいわけだが、不親切なのが問題だ。もっと親切にして欲しい。「不親切な方もいる」という表現ならはっきりわかるはずだ。

(渡邊委員) コミュニティ活動の中で、これは自浄作用を含めてやるべきなのだろう。本委員会においては武蔵野市のコミュニティ全体に関する方向性やあり方を示すことを目



的とすると言っている。そのような中に、特定のコミュニティセンターに無愛想なものが数名いる例を挙げることで自身が、格調の問題ではないかと思ったのだ。

それぞれのコミュニティ協議会や、地域のコミュニティ協議会で、その自浄作用を含めて対応すべきことが、本筋だと思う。無愛想な数人を責めてもよくなる。あり方に対してやる場合の、例の挙げ方の問題である。

(清本委員) コミセンの受付の方は、どのような初期教育、トレーニングを受けるのか。協議会が責任を持って、窓口業務の意味のようなものをきちんとやっているのか。

(橘委員) コミセンごとに違うと思うが、新しい方が入ってきた場合は、まずは古い方と組み合わせたOJTを行っていると思う。仕事を通して覚えていただく。また、研連で、年に1回、窓口研修会をやっている。

会社の受付などは、ある意味で専門職だから、本当の意味での教育を受けているが、われわれの場合はあくまでもみんなでおこなう。教育というのは実務を通して覚えてもらうしかないと思う。

(井波委員) その件はこれからの最終報告書の中で委員会としてやって欲しいということにしよう。進めないと肝心なことが終えられないので、まずはひと通りやってみよう。

(渡邊委員) その文章を削除しろということを言っているわけではない。窓口の対応がいかにか大事かを述べて、アンケートの中でも大事さに関するような事象があり、事例としてここに出されるのに「無愛想な方が数名います」と記述するのがよくないと言っただけだ。全体の趣旨はよい。

(井波委員) 5ページの丸のいちばん下で、「貸し館としてしか機能しておらず防犯・防災や高齢者支援など…」と書かれているが、当事者としてはこのようなことを書かれているのか。

地域では、コミュニティ協議会にこうしたことを期待している。しかし、コミュニティ協議会について、このような内容を地域で課題解決するだけのキャパも必要だし、本当にこれでいいのか。

もしこれを書くならば、こうした問題解決に向けて地域の他の関係団体、たとえば地域社協などとの調整や協力関係、そうした取り組みが充分おこなわれていないことぐらいだ。これを書かれたら過大ではないか。

(橘委員) 防犯、防災とか、高齢者支援などの特化した、いわゆる地域団体とのネットワークづくりや連携を、ダイレクトにコミセンの仕事だと言われてしまうと、違うのでは

ないか。

(井波委員) たとえばここで書くかどうかは別にして、今度はヒアリングで、逆に各コミュニティ協議会なり、コミ研のほうから、これは違う、われわれができるのはこの範囲だなどの、逆の意見が出て構わないと思う。

(橘委員) コーディネートだと言っているが、それが全てではないと、はっきり言える。

だから、これはやはり書き方を変えていただいたほうがいい。要するにネットワークづくりなどで不十分な面があるのではないかという疑問だ。

(井原委員) 貸館の部分に関しては、書かれている場所が違うのではないか。貸館に関しては確かに今までの議論の中で特に防災の拠点になっていないのではないかと、ということは出ていたと思う。ただそれは拠点になっていないと断定されたわけではなく、なっていないのではないかとという疑問でまだ終わっていたので、ここに貸館のことで書くのであれば、館としての機能面だけ書くべきであって、協議会がそれを担うかどうかはその前のページの「コミュニティ活動の現状を見ると」で、防犯、防災の取り組みについて書かれている。この書き方も「取り組みが充分におこなわれていない」ではなく、「求められている」などの書き方に変えるべきで、それを分けたほうがいいのではないか。

(西村委員) この部分は、前のページに書かれているので、削除してもいいと思う。

この囲みの中は活動促進の拠点となっていないのではないかと先ほど変わった。それと今の「貸館として機能して」が、また矛盾するような気がする。それで先ほど高田委員長が追加された一番下の2行、これは囲みの中ではなく、囲みの外ではどうか。

(高田委員長) なぜか。コミュニティ活動の促進に関するということで、活動促進の拠点となっているところもあるし、なっていないところもあると。

(西村委員) なっていないのではないかと先ほど文章を変えた。そこへ大きな差が生まれていることまで付けなくて、その囲みの中でもいいと思った。

そのあとの市が出している補助金に言及し、その使い方にコミセンごとに大きな差があるということは、抵抗がある。年間の事業費の補助であって、コミセンによってその使い方には大きな差があるとは、言いがたいというか、比較したこともない。額の問題ではなく、使い方の中身の問題としてなら考えられるが。

(事務局) 技術的な話で、市から各コミュニティ協議会に渡している補助金は、定額部分、非定額部分となっていて、この補助金として渡しているものは、これは運営部分に使って、これは事業費として使って欲しいというように、かなり使い道を限定している。だ

から全ての協議会のその数値を挙げたとしても、その使われ方によって大きな差があるのは、技術的には出せないのではないか。

(西村委員) いわゆる運営費や、コミュニティセンターのほうについて、厳密に分けがたいところもあるが、そうではなく、補助金の中の事業費だ。

その使い道については比べたことがないので、大きな差があるとは指摘しがたいと思う。

(井原委員) 私も協議会によって事業費の大きな差があることを、なぜ指摘しなければいけないのかよくわからない。

(高田委員長) ずっと前に事業費の審査をしたことがある。100万円から30万か50万の事業費はコミセンのほうから申請する。それを見ると活発なところと活発でないところが一目瞭然になってしまうと思った。

(橘委員) 差がはっきり出てくるのは、期末の翌期に対する繰越金だ。大きく余らせているか、プラマイゼロでやっているかで、事業をやっているかやっていないかはっきり出てしまう。

(高田委員長) やはりこの追加の部分は削除しよう。活発な活動をおこなっているコミュニティセンターとそうでないコミュニティセンターの間に大きな差が生まれているというのには小さな丸にして入れるか。

(橘委員) それとこの防犯、防災や高齢者支援云々とあるが、現状、コミセンは防災の拠点にはなっていない。今後そうなるかは別にして、今、そう言われても、コミセンとすればどうしようもない。

(高田委員長) 防災を取るということか。

(井波委員) 知らない人が読むと、やるべきことをやっていないような文章になる。

ただ求められていることは事実で、ここではなくて別の場所を書くべきだ。

(和久田委員) 避難場所として指定されていないが、コミセンを使ってAEDや救急についてやったり、また、地域防災ミニフェアなどやっている。そうしたところもあるので、全くやっていないわけではない。

(橘委員) いや、それはやっているが、この書き方では全てコミセンだけが、と受け取られてしまい、おかしいのではないか。

(島田委員) 提案だが、今話題にしている、「しかし貸館として云々」と書いてあるこの項目は、高田委員長の書いたものの3ページの、コミュニティ活動の現状と課題の中に含まれていると考えられるのではないか。「一方で市民アンケートの結果によれば、地域に防

犯、治安対策や災害時云々」と、ここで書いてある。だからこれはセンターの話から切り離して、コミュニティの活動のほうに、こうしたことが言われていると持っていったらどうか。

(小木委員) センターを場所として捉えた時に、こうした方向の活動という意味で重ねて載せてもいいことではある。

(橘委員) 防災について、われわれは指定された覚えもないし、一方的に期待されている部分があるかもしれないが、これはちょっと行き過ぎではないか。

(島田委員) 今、橘委員が言われたような書き方で、前のほうにも書いてある。多くの課題解決が期待されているとなって、断定しているわけではない。「こうした課題の中で」という言葉が前に入っているの、それでどうか。

(西村委員) 第1章のコミュニティの現状と課題、コミュニティセンターの現状と課題というのは、突っ込んでいくと矛盾が出てきてしまうから、ほどほどのところでまとめておくべきだ。その先のコミュニティ協議会の役割と機能のほうはしっかりやらないといけない。

(高田委員長) 先ほどの防災のところでは問題なのは、そのような地域のいろいろな問題解決に向けた、地域団体とのネットワークが不十分だということだろう。

(橘委員) だからコミセンというのはセンター、協議会とどちらかわからないが、コミセン自体の解決すべき問題が、コミセンだけが解決すべき問題とはならないということだ。

(高田委員長) では防犯、防災、高齢者支援などといったを全部取るか。

(橘委員) 地域の安全、安心という地域の課題ぐらいの言い方のほうがいいかもしれない。そのために地域の諸団体との連携、ネットワークづくりという言葉を入れたほうがいいのかもわからない。

(小木委員) 「という活動の一端を担う」とか、そのような言葉でまとめておいたらどうか。

(高田委員長) 「地域の安全、安心の課題解決に向けた、地域団体とのネットワークが充分におこなわれていない。」

(小木委員) これはセンターのことだ。

(橘委員) そこで大事なことは、いわゆるコミセンがリーダーシップを取ってやるべきなのかどうかだ。全体の基調とすればそうした書き方になっているが、果たしてそうだろうか。

(高田委員長) いや「センターがこの活動促進の拠点」と、そこには書いてあるわけだから「活動促進の拠点としての」となっているか、というところだ。

(渡邊委員) この四角の中に「コミュニティセンターが単なる、貸館になってしまい」という指摘が書かれたので、あとは整合性が取れないのではないかな。

いつも思うが、今まではコミュニティセンターは人と人を繋ぐコミュニティづくりの拠点だと言われてきたが、今のこうしたいろいろな課題解決型とか、全体としてのこうした課題に対してもやっていくためには、コミュニティセンターは、いろいろなコミュニティのネットワークづくりの拠点にシフトしていったほうがいいのではないかな。

爆弾が出てきたというので、うちの小さいコミセンでも避難されてきた方がいた。それからビルにおけるガス発生の問題などの時の避難場所としてもコミセンが指定されているし、防災の拠点にそうした貢献はできるはずだ。

(高田委員長) ではここは地域の団体とのネットワークが不十分だということに持っていくことにしておこう。

その次の補助金はカットする。

それから、今やったコミュニティ活動を活発におこなっているコミュニティセンターとそうでないコミュニティセンターの間に差があるというところは、この外の丸のほうに入れる形にする。

コミュニティの活性化、5ページの方向性だが、まず、コーディネーターが問題になっていた。これをどうするかは置いておくが、「お手伝い」という言葉が出ている。それから「おともだちづくりサポート隊」は、言葉としてインパクトが強すぎるのでカットする。

(西村委員) 1番上のタイトルにするのをやめて、本文の中には入れてもいい。

(高田委員長) 「コーディネート」という言葉について、上のほうに各コミセンのところで、「団体同士」とか、「地域の団体とコミュニティ協議会の」と書いてある。これは「コミュニティ協議会同士は」だ。上記の活動とともに、そのような場を設けているということを書いておこうかと思ったのだが、これはコミ研連を出すか。

(橘委員) 研連がそうした役割を果たしていることは事実だ。情報交換はあって、研究はなかなかやる時間がないということだ。

(渡邊委員) だから「お互いの工夫やノウハウを定期的に」はやめて、情報交換を重視するとか、機会を多くするとか、力を入れるとして、定期的に場を作って何かをするのではない。研連は月1回、定期的に情報交換の場としてやっているのだから、ここを取ってし

まえばコミ研連との関わり合いもうまくいくのではないか。

(橘委員) 場にはなっているが、それをひとつの問題なり、いろいろな問題を掘り下げてやる時間がなかなかないのだけは事実だ。そのためにあり方懇談会があるのだから。

(橘委員) 「お互いに工夫やノウハウを定期的に情報交換する場を設けることが望まれる。」場はもう研連としてある。研連という場があるのだから、望まれるということだ。研連がなければこうした書き方はいいが、研連とあるので、もう少し研連を利用してはどうかなどの書き方のほうがよいのではないか。

(清本委員) 7ページの追加の部分だが、コミュニティセンター同士は上記の活動促進のためには、どういう意味か。

(高田委員長) 具体的な取り組みとして、地域の団体とその団体とコミュニティ協議会の連携があったので、むしろコミュニティ協議会同士もそのようなことをすればいいのではないかと思い、付け加えた。

(橘委員) 要するに地域諸団体とコミュニティ協議会同士だ。

(清本委員) この前、コミュニティ市民委員会がコミセンのヒアリングをした時に、各コミセンの方が数名出ていらして、説明をされたり、いろいろな意見交換ができたんですが、あのあとで、こうした情報交換の場は非常に有益だと言っていた方が何人もいた。このコミュニティセンター同士は、というのは、そのようなことだろう。

しかし、ここに書くだけで、それが仕組みとしてなければ、ちゃんと機能しないので、そのような仕組みを作ることだ。

(高田委員長) これは研連に頼まないで、ということか。研連とは別に。

(清本委員) 研連はトップだけなので、そうではなく、できればなるべく広い範囲の方が。

(橘委員) それから先ほど私がお話した窓口研修会は非常に参考になっている。自分が悩んでいる問題について、ほかでもあるのだな、その解決はどうしたのだと、いろいろな情報をそこで得られるから。

(渡邊委員) その地域にある地域コミュニティ団体とのネットワークを広げていくことが重要で、コミュニティ活動の活性化のために必要だということは、共通の認識になっている。

(橘委員) 研連として、いわゆるネットワークづくりのための活動資金を、今、16 コミセンに研連の費用の中から渡しているわけだから、全く無策で何もやっていないのではな

い。

(高田委員長) 今、問題になっているのは、「コミュニティ協議会同士は上記の活動促進のためにお互いの工夫やノウハウを」のあたりだ。

「その研連の場で活発に情報交換してもらいたい」となるのか。「活発な情報交換が望まれる」なのか。

(橋委員) 現実にやっていることではある。

(島森委員) それは研連のやり方や、内容をもう少しまた今一步考えるということか。

(高田委員長) 私はそのつもりだが、橋委員はやっていると言っている。

(島森委員) 本当は時間があれば、お互いにいろいろなことを議論したいのだが、議論する時間がないのが問題だと、いつも残念に思っているの。だから情報交換とか連絡事項とか、もう少し何か工夫によって、時間を縮めて、お互いのコミュニティ協議会の活動促進のための議論ができるような場を作ろうということだ。

(西村委員) コミュニティ協議会の役割機能が、1-1のコミュニティにおける役割機能と、1-2のコミュニティセンターの管理運営における役割機能と、2つ分けられているのはいいが、整理されていない。たとえば今のコミ研連の話が、コミュニティにおける役割機能になるのか。

(高田委員長) これは活動のほうだ。

(西村委員) 活動の促進になる。活動の促進でこの件が出てきていいのだが、コミュニティにおける役割、機能ではない。研連についてはコミュニティ研究連絡会も皆で考える必要があると私が出したが、皆の話にはなっていない。

(井原委員) だからそれは、今後、検討しなければいけない課題に載せるべきだ。

話し合っていないことが書かれているから混乱するのであって、それははっきりとカットして、さらなる課題ということで。

(高田委員長) コミュニティ協議会の役割と機能の中で、それが1である。それから2は行政の役割だ。だからコミュニティの活性化に向けた方向性は、コミュニティ協議会の役割と機能と、行政の役割と、その施設、設備が3になるのか。この3の施設、設備という枠がはっきりしない。なぜ3になっているのか。

(コンサルタント) 3はコミュニティセンターの施設、設備のあり方で、ハードに限った話をここにおいている。

(高田委員長) それからわれわれのほうがやるべきところに、コミュニティセンターの

移転、新築、改修に関することがある。そうすると境の話はどうなるのか。

(コンサルタント) 分館を作るのか、それとも本館を作りたいのかもまだはっきりしていない段階では何も書けないので、記載していない。

(高田委員長) そうすると、コミュニティの活性化に向けてコミュニティ協議会が何をするかと、行政が何をするかと、どのような施設を作るのかということか。

(事務局) アンケートで、入りにくい雰囲気があったという意見が多かったので、ハードの改修だけではなく、何か手を考えるべきだという提言をして、それに対する意見をいただきたい。あるいは建物全体をいじるのではなく、間取りを変えるとか、ちょっとした模様替えでも対応できるものもあるのではないかと提議している。

昔は和室が高齢者の方には使いよいと思っていたが、そうでもなくなってきたという意見もあった。では和室を洋室にリフォームすると提議してもいいのではないか。

(井波委員) 8ページが議論されていないが。利用するものの立場から言うと、このイベントを抜本的に見直すというところで、この書き方は、少し弱いのではないか。

この委員会で、30年、40年経っているということは、当初、コミュニティ協議会あるいは自主三原則でスタートした原点に一度戻らないといけないのではないか。ここは、言葉としては最後の「交流を深めるきっかけを提供するためのイベントとしていくことが必要である」という、弱い書き方ではなくて、提供するための役割を果たしているのか、見直しが必要であるぐらいの文言にする必要があるのではないか。

(高田委員長) 「イベントの位置づけを抜本的に見直し」と書いてあるが。

(井波委員) どのような切り口で抜本的に見直すかをはっきりしておかないと。

(橘委員) コミュニティ三原則に沿ったものであるかということを入れたらいいかもしれない。

(渡邊委員) 反省点はやはりそうした原点に立った、目的を明確にして取り組むべきだ。迎合的な事業であったり、こなし的な事業であったり、予算消化の事業であってはだめだという点は、やはり自省しないとけない。

(高田委員長) 今のところ、井波委員の話はどうなるのか。

(井波委員) 「交流を深めるきっかけを提供するための役割を果たしているかどうかを見直し必要がある。」ぐらい強く書いていかないと。細部はお任せする。

(島森委員) 先ほど施設の10ページのコミュニティセンターの施設、計画は云々という中の2番目の丸の、「また小中学校等ほかの防災拠点との関係も踏まえつつ、防災の拠点と



して機能を持たせることができないかを検討することも必要である」というところだが。

この間のアンケートの結果で、地域の方が望んでいる防災というのは、場所としてなのか。何を望んでいるのか。防災とか防犯というのは、センター自身がそうしたことを拠点としておこなうのか、そうした場所として望んでいるのか。この意味は何か。施設、設備に、すでにこうしたことが入っていること、改修等のところに入っていることは、そうした防災の拠点の場所としても望まれているということか。

(橘委員) しっかり位置づけをすべきだ。

(井波委員) たぶん両方だ。私はこの問題については相当慎重に、各コミュニティ協議会がそれに対する見解をきちんと持ち、安請け合いはできないのではないかなと思う。

(高田委員長) これは「持たせることができないかも検討することも必要で」と、すごく引いたような感じだ。

(井原委員) アンケートは確かにそれがわからなかったので、この書き方で充分だと思う。しかも「ちゃんと検討することも必要である」と、断り書きを書いてあるし、いいと思う。

その部分だが、これがちゃんと載っているとすると、5ページの、「しかし貸館の云々」というのは逆に削除してしまったほうがわかりやすいかなと思うが、どうだろう。

10ページの2の行政の役割についての、委員長が追加された丸だが、これはここに書くのではなくて、先ほどと同じように目次の項のさらなる論点として書いたほうがいいのではないかな。

(高田委員長) それは私も同意する。貸館はやはり貸館と書いておいたほうがいい。論点としては議論になっていいと思う。

このあとのところは相当、書き加えたり、いろいろなことをしなくてはいけない。私と事務局でもう一度集まって、作業をしたい。皆さんには、メールがある方は添付で送り、ない方は事務局が直接手渡す。われわれは11日までに考えて12日に送り、13日までに意見を出してもらおう。

(渡邊委員) 先ほど委員長が3つ書いたところは大事で、それについて、今まで論議をしていないものは、問題提起としてそちらでおおまかにまとめて、提供してもらえたらと思う。

それから、行政の役割について、たとえば第五期の答申があつてから、コミュニティ協議会ができ、目的別コミュニティ、電子コミュニティなどがあり、評価委員会の問題もあ

った。その後の改正で指定管理者制度の問題も入ってきた。法制的なものの変更、変遷もしてきているわけで、その辺を含めて、行政の役割の中に、情勢分析も入れていただいて、行政の役割と関係はこのままでいいのか、どのような影響を持っているのか、ということもコメントしていただければ、理解しやすい。

(高田委員長) 入れておく。もう一度議論しなければいけないので、そのような形でやってみる。しっかり読んでコメントをいただきたい。

## ②当面の日程について

- ・ 8月18日～9月7日 パブリックコメント募集
- ・ 9月15日(火) 地域別ヒアリング(西部) 市民会館集会室 18:30～
- ・ 9月18日(金) 地域別ヒアリング(東部) 公会堂第3会議室 10:00～
- ・ 9月26日(土) 地域別ヒアリング(中央) 芸術劇場小ホール 13:00～

[了]